

研修報告

『2023年度 退院・療養継続支援研修①』

◆テーマ：『今、改めて考える 療養継続の観点からみた老人保健施設の魅力』

◇日時：2023年5月27日(土)14:00～16:00 オンライン

◇内容：【講義】

講師：一般社団法人 愛知県老人保健施設協会 研修委員会委員 支援相談員部会
部会代表者/社会医療法人 大雄会 老人保健施設アウン
事務長代理 松本 泰 氏

【グループワーク】

◇内容：退院先として、療養継続の場としての老人保健施設の利用について参加者それぞれの地域事情や選択基準などについて情報交換し、よりよい退院・療養継続支援を行う方法等についての意見交換。

◇参加人数：22名（当日ライブ参加15名）

◇アンケート
コメント紹介◇ ～一部抜粋～

- ・老健の多様な使い方もっと知っていただく必要があるな、と感じた。特養待ちでの入所や方向性検討の為の入所、在宅復帰から看取りまで、いろいろな使い方が出来ることをもっと知ってもらい、とりあえず老健にお願いすれば何とかしてくれる、そんな存在になっていかないといけないと感じた。（老健5年～10年未満）
- ・一般的な老健の概念で物事をすすめがちでしたが、出来ないと思いこんでいた部分が出来そうであったり、施設によって方針が異なるのだなと一概に決めつけてはいけないことなのだ、新たな発見がありました。変わってきているところを知れて有意義な時間を過ごせましたし、躊躇していた相談はこれからはっきりしていこうと思いました。（診療所1～3年未満）
- ・老健の魅力を再認識することができました。患者さんの病態を見て、老健は無理だな、と諦めるのではなく、何か工夫する事で、老健が療養先の選択肢に入れるかも、と考えて退院支援したいとおもいました。老健の実際を聞くことができて良かったです。（総合10～15年未満）
- ・老健は薬価の問題や医療行為がネックになり退院調整に躊躇することがあったが、施設によって裁量が異なるため早めに情報提供をして、まずは判断を仰いでみるのが大切だと感じた。急性期病院にいると患者さんが地域に戻るまでのイメージが湧かなかったが、老健は高齢者が地域での生活支援の拠点としての役割を担っており、医療機関での療養から生活の場へ戻っていくまでの橋渡しのような形で利用できることが魅力だと感じた。（総合1～3年未満）

退院・療養継続支援研修①について

退院・療養継続支援研修委員会 長尾 貴子

今回の研修は、療養継続の観点から老人保健施設について学びなおし、その魅力を理解した上で、日々の退院・療養継続支援に繋げていきたいという発想から企画した。

前半の講義では、老人保健施設は5類型に分かれ、それぞれ特徴や強みがあるが、在宅復帰のみならず、在宅療養生活を支え続ける施設であることは他に類を見ない施設であることを学んだ。

後半のグループワークでは、講義を踏まえて日々の実践の共有や地域の状況を交えながら活発に意見が交わされた。参加人数は15名ではあったが、内容が濃く、老人保健施設の魅力を再認識し明日からの業務に生かせる研修となった。